



発行所 日刊建設工業新聞社
〒105-0071 東京都港区新橋2-2-10
TEL03-3433-7151 https://www.den.co.jp/
〒105-0071 東京都港区新橋2-2-10
TEL03-3433-7151 https://www.den.co.jp/
〒105-0071 東京都港区新橋2-2-10
TEL03-3433-7151 https://www.den.co.jp/
〒105-0071 東京都港区新橋2-2-10
TEL03-3433-7151 https://www.den.co.jp/

THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

日刊建設工業新聞

2018年(平成30年)

8月28日 火曜日

第19495号

日刊

2017年は関東・東北に大きな災害をもたらしたカスリーン台風から70周年を迎えた。死者1077人、行方不明853人、住家損壊9298棟、被災者約40万人。近年、首都を襲った最大の洪水である。

1947年9月16日未明、埼玉県東村の利根川右岸堤防が大音響とともに340mにわたり決壊し、平野部に濁流が流れ込んだ。水は自然のことわりに従って低きに流れる。利根川東遷前の自然状態と同じように大利根川の流れを再現し、元河道から離れて古利根川・中川に沿い南下した。一方、荒川でも15日午後6時半ごろに鴻巣の糠田地先で65m、7時半ごろに熊谷の久下堤が100mにわたり決壊した。共に旧河道元荒川筋に沿って春日部で利根川の濁流と合流してさらに流下。18日夕方に埼玉

明治維新150年と治水の歴史

竹林征三

〈25〉カスリーン台風70周年と寛保2年洪水

隊1000人を現場に急行させ、ダイナマイト18本で合計8回の爆破を行ったが、堤防はガスが立ち上るだけでビクともしなかった。19日未明に桜堤はついに崩壊して、東京の金町、柴又、小岩が一瞬にして水没した。堤防を切ることが間に合っていたら、東京は水害から免れることができたのだが残念である。

19日午後3時ごろ、ようやく松戸にある千葉農専の学生150人と消防団員50人がスコップとツルハシによる人力掘削で堤防を切ることに成功したが、半日以上遅かった。床上床下浸水は東京が10万5482戸、埼玉で4万0640戸を上まわり、浸水期間は半月を超えた。ダムは環境を破壊するの

で、ダムによらない治水と、堤防強化の方がより良いとの社会風潮がつけられた。だが堤防強化とは何か。どこをどのよう強化すれば良いのか？堤防弱部調査のために堤防を200m間隔にボーリングする話があった。

堤防のボーリング調査で何がわかるのだろうか。砂礫の盛り土で築造された堤防をボーリングしたら、堤防の弱部がコアで分かるというのだろうか。いくら丁寧なボーリングをしても砂粒がバラバラに上がってくるだけで何も分らない。堤防強化のための有効な弱部を特定できる探査技術は夢物語なのか？

緊急時にダイナマイトで堤防を破壊するとしても、堤防は盛り土で空隙(げき)がある。おなみに堤防を人為的に決壊させることを「態(わざ)と切(きり)」と

寛保2年洪水の痕跡は①長瀬の磨崖水位標、②鷺ノ宮神社の「刀禰上流以南修治告成碑」③川越の洪井観音堂の絵馬、④戸田の妙頭寺の七字名号碑などがあ

る。いずれも超一級の治水遺跡である。寛保2年洪水とカスリーン台風の浸水区域は下流域では大略よく似ている。

参考文獻・『物語日本の治水史』鹿島出版会(富士常葉大学名誉教授、風土工学デザイン研究所会等からも、あまり大きな声が上がらなかったように思